

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	4570800237
法人名	医療法人 隆徳会
事業所名	グループホーム 菜花園
所在地	宮崎県西都市大字穂北字東原5253-105 (電 話) 0983-41-1231
評価機関名	宮崎県医師会サービス評価事務局
所在地	宮崎市和知川原1丁目101
訪問調査日	平成19年7月26日

【情報提供票より】(19年 6月26日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成 13 年 4 月 28 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	17 人	常勤 15人, 非常勤 2人, 常勤換算 15人	

(2)建物概要

建物構造	鉄骨 造り		
	2階建ての	1 階 ~	2 階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	36,000 円	その他の経費(月額)	円
敷 金	有(円)	☒ 無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円) ☒ 無	有りの場合 償却の有無	有／無
食材料費	朝食	170 円	昼食 240 円
	夕食	290 円	おやつ 100 円
	または1日当たり 円		

(4)利用者の概要(6月 26日現在)

利用者人数	16 名	男性	1 名	女性	15 名
要介護1	2 名	要介護2	5 名		
要介護3	3 名	要介護4	6 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 86.28 歳	最低 70 歳	最高 98 歳		

(5)協力医療機関

協力医療機関名	鶴田病院 ・ 鶴田クリニック
---------	----------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

事業所は、西都市中心地から北東の茶臼原台地に、同法人の老健施設に隣接して建っている。理念の中に「地域交流を通して」という内容があり、地域の方や近隣の保育園、小学校との交流を盛んに行っている。外部評価をサービスの質の向上の機会と位置付け、職員それぞれが自己評価に取り組んでいる。
--

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の評価で指摘のあった「口腔ケア」については、毎食後歯磨きの声かけと見守りや介助を行い、入れ歯の管理、手入れも確実な支援に改善されている。ヒヤリハット・事故報告書も改善に向け努力している。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	全職員で自己評価に取り組み、改善への気付きと評価をしながら、今後の課題として前向きにケアの質の向上に繋げるよう取り組んでいる。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	2か月に1回の運営推進会議の中で、事業所の役割や状況等を報告する事で参加者に事業所への理解と協力を得る良い機会となっている。また、花見のできる運動公園に「障害者用トイレ」の新設を要望する事などの取り組みが行われている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族には、訪問時や家族会、電話での報告の時などに常に問いかけ、何でも言える雰囲気づくりを心がけている。2回の家族会や運営推進会議の機会にも要望等さりげなく話しを出している。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	近くの保育園、小学校からの慰問の交流があり、利用者が運動会の応援に出かけたり、また、年1回行われる森のコンサートや介護老人保健施設の夏祭りには、地域の人々も来て頂いている。

2. 評価結果(詳細)

(☐ 部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域の交流を取り入れた内容の理念を作り上げ、事業所内のよく見える所に掲示されている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	全職員で理念を共有し、毎週皆で読み上げ、意思統一と理念の実践へ向け取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	事業所に保育園児や小学生が手づくり作品を持って遊びに来たり、利用者が運動会の応援に出かけたり、地域のお祭り等にも積極的に参加している。また、年1回行われる森のコンサートや老人保健施設の夏祭りには、地域の人々にも来て頂いている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	全職員で自己評価に取り組み、ケアの振り返りや見直しの機会にしている。質の確保に活かしていく姿勢が見られた。結果は、ミーティングで報告し改善に向け検討や実践への努力をしている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議で事業所の状況や役割などを説明することで区長などの事業所理解と協力を得る良い機会となっている。近くの公園に「身障者用トイレ」の設置を要望する取り組みなどされている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の担当者とは、常に情報を共有し、サービスの向上に取り組んでいる。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	ホーム便りは、年6回発行している。また家族の面会時や電話連絡など個々に合わせて報告をしている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族には、訪問時や家族会、電話での報告の時などに常に問いかけ、何でも言える雰囲気作りに心がけている。家族会や運営推進会議の機会にもさりげなく話を出している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	利用者へのダメージを防ぐ配慮から、時期を見て報告している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者は、法人内外の研修の機会が確保されているが、一般職員は、法人外の研修に休日を利用して個人で参加している。		一般の職員にも、法人外研修の機会を設けることにより、サービスの質の向上を目指す取り組みをしてほしい。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホームのブロック研修や法人外研修等で交流の機会を持ち職員の質の向上に取り組んでいる。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人や家族が事業所を見学したり、遊びに来て貰ったりする事等で、生活の安定を見極め、本人の希望を考慮しながら、入居に移行するようにしている。		
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員と本人と一緒に動くようにしている。畳拭きなど教わりながら、人生の先輩として敬いの心で受け止め、寄り添う支援をしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日ごろのかかわりの中で、本人の希望などを聞きながら、どのように暮らすことが最良なのか、把握することに努めているが一部ノートに記録されているだけである。	○	生活を支えるアセスメントの確認と視点が把握できるようにしてほしい。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者一人ひとりの思いや希望などを把握したアセスメントを含め、全職員での意見交換やモニタリング・カンファレンスを行っている。本人主体の介護計画は利用者全員ではない。	○	気づきや意見、アイデアなど話し合った結果を反映した介護計画の作成をしてほしい。
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の短期、長期の期間設定に合わせ、見直しをしているが、一部できていない方の分がある。	○	介護計画は全職員での意見交換やモニタリング・カンファレンス等を行い、3か月毎の見直しと状態変化に応じた見直しを行っているので、さらに月1回程度の見直しに繋がってほしい。

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人や家族の状況に応じて、通院や送迎等必要な支援をしている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族共に納得を得て、かかりつけ医と良好な関係を構築し、適切な支援をしている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	協力病院、訪問看護と契約し、検討を準備している。家族には、口頭で説明し伝えている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	目立たず、さりげない言葉かけや対応に配慮している。本人のプライバシーに関することは話さない。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの状態や思いに配慮しながら、柔軟に対応している。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	全職員が、同じテーブルを囲んで利用者と同じ物を、一緒に楽しく食べている。「美味しいね！」と会話も弾む。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	事業所の入浴日、時間等に合わせて支援している。	○	本人の入浴希望の日時に合わせた入浴支援をしてほしい。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者に合わせて、お願いできそうな仕事を頼み、終わったら、感謝の言葉を伝えるようにしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	日常的に、庭園の散歩をしている。保育園までの散歩、近郊への花見や受診時にドライブの機会をつくる等戸外での支援も心がけている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	徘徊の状態が強いときは、玄関に鍵を掛ける事がある。	○	鍵をかけないケアの工夫をしてほしい。
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年1回、消防署の立ち入り検査を受けている。年2回、老人保健施設と合同で防災訓練を行っている。今年度は、事業所独自の避難訓練を行う予定である。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分の摂取状況を毎日、チェック表に記録して、職員が情報を共有している。残食量等も個別に記録し、栄養摂取量を把握している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	食堂は明るく、天井扇が室内の空気を循環させているために爽やかで、利用者みなさんの団欒の場になっている。また、廊下等の要所には、手すりが取り付けられているが、トイレには手すりがない。	○	トイレの手すりの取り付けで、利用者の安全確保と自立支援をしてほしい。
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	テレビや仏壇、家族の写真や使い慣れた日用品が持ち込まれ、利用者の居心地のよさに配慮している。		